

特集

あきる野から発信

ヘルスケアの新たな価値

H.U.グループホールディングス 最先端技術を結集

「H.U. Bioness Complex(AkirunoCube)」



東 俊一(ひがし・しゅんいち)氏 株式会社エスアールエル代表取締役社長、H.U.グループホールディングス株式会社執行役員、H.U.フロンティア株式会社代表取締役会長。

「H.U.グループホールディングス」(代表取締役社長兼グループCEO・竹内成和、本社・新宿区、5月8日から港区に移転)は2022年1月、あきる野市に、最先端の技術を結集した臨床検査ラボ「H.U. Bioness Complex(愛称AkirunoCube)」を800億円以上を投じて開設した。

「命のデータ」を蓄積 業界にイノベーションを

「H.U.グループホールディングス」は1950(昭和25)年に富士製薬として創業。主に臨床検査薬の研究開発・製造・販売事業を展開し1983年に富士レボに社名を変更。1970年に創業した臨床検査企業エスアールエル(旧・東京ペリアルファランストラボラトリー)等と2005年に経営統合して「みらかホールディングス」となり、創業70年を迎えた2020年にヘルスケアの発展に貢献する企業グループ「H.U.グループホールディングス」となった。H.U.は「ヘルスケア・フォー・ユー」の意味。検査

「H.U.グループホールディングス」は1950(昭和25)年に富士製薬として創業。主に臨床検査薬の研究開発・製造・販売事業を展開し1983年に富士レボに社名を変更。1970年に創業した臨床検査企業エスアールエル(旧・東京ペリアルファランストラボラトリー)等と2005年に経営統合して「みらかホールディングス」となり、創業70年を迎えた2020年にヘルスケアの発展に貢献する企業グループ「H.U.グループホールディングス」となった。H.U.は「ヘルスケア・フォー・ユー」の意味。検査



下村 智(しもむら・さとし)氏 あきる野市医師会会長、医療法人社団豊信会理事長。

【略歴】防衛医科大学校医学部卒業、防衛医科大学校研修医 専修医、自衛隊中央病院医師、アメリカ国立衛生研究所(NIH) visiting associate、自衛隊病院等関連施設 放射線科部長等、科学技術庁放射線医学研究所主任研究官、大宮市医師会病院 医局長など。専門は内科全般、循環器疾患、消化器疾患、皮膚疾患、リハビリテーション。日本内科学会総合内科専門医、日本総合診療医学会認定医、医学博士、REACT修了。



「H.U.グループホールディングス」が運営する「H.U. Bioness Complex」の検査ラボ棟、R&D(研究開発)棟、管理棟、厚生棟の4棟(4つのCube)と回廊(シナプス)等からなり、グループ「H.U.グループホールディングス」の新たな価値の創造を象徴する中核施設だ。検査能力は一日数十万件で、現在の従業員数は約1千人。基礎研

究から製品やサービスの開発、環境への取り組み、BCP(事業継続計画)への対応なども含まれる。世界最大級の臨床検査ラボでは、120坪に及ぶ2本の自動検査ラインで行う一般検査に加え、遺伝子、染色体、病理検査などの特殊検査まで対応。非常用の自家発電や受水槽を備え、災害時でも3日間検査が継続できる。「検査を止めない」を実現している。

東執行役員は「ヘルスケアにおける新しい価値の創造を通じて、人々の健康と医療の未来に貢献する」がグループのミッションで、「人々の健康に寄り添い、信頼とイノベーションを通じてヘルスケアの発展に貢献するグループを目指す」がグループのビジョン。臨床検査・検査薬を中心としたコア事業に誠実に取り組み、健康で豊かな社会の実現に貢献することが最大の使命と話す。成熟市場と言われる臨床検査市場は、ゲノム解析など先端医療に対す

る特殊検査と、健康診断を含む一般検査に二極化していくと予測され、「病床再編が加速して急性期病床の減少、病院の競争激化、開業医の在宅医療へのシフトにどう対応していくかが今後の課題」とする。

国内受託臨床検査市場は約6千億円(2020年度)で、1.6%の年平均成長率(2016〜2019年度)。同グループはそれ以上に成長しており、国内市場シェアは23.2%(矢野経済研究所「2022年版臨床検査センター経営総覧」)と業界トップを誇る。東執行役員は「今後、少子高齢化、労働人口の減少、先端医療技術の進展、公的財政および健保財政の悪化、ITテクノロジーの進展が予測される中で、ポイント医療の高度化・専門化、地域包括ケアの充実、医療連携・効率化のためのIT(DX)の推進。この環境の中で医療とヘルスケアの課題を解決していきたい」と話す。

あきる野という選択

H.U.グループホールディングス株式会社執行役員 東俊一氏に聞く

■下村 素朴な質問として、あきる野という場所を、なぜ選ばれたのでしょうか。

東 もともと八王子にあった当社グループのラボは1980年の開設以降、増設を繰り返してきたため、各施設が分散しており、施設間の機体搬送が大変で効率が悪いという課題がありました。建物も基幹システムも老朽化し、拡張性に限界が出てきたため、新しいセントラルラボの建設に着手しました。従業員のことを考えて従来の八王子に近い場所、働きやすい場所、という点であきる野は好立地でした。

■下村 健康診断のレベルを上げるという意味では、この地域はドクターが多くないという課題があります。画像診断などでダブルチェックが難しいなどの問題もあり、ABC検査などを考えて検査機関とコラボレーションすることができればいいですね。

■東 もともと八王子にあった当社グループのラボは1980年の開設以降、増設を繰り返してきたため、各施設が分散しており、施設間の機体搬送が大変で効率が悪いという課題がありました。建物も基幹システムも老朽化し、拡張性に限界が出てきたため、新しいセントラルラボの建設に着手しました。従業員のことを考えて従来の八王子に近い場所、働きやすい場所、という点であきる野は好立地でした。

■下村 健康診断のレベルを上げるという意味では、この地域はドクターが多くないという課題があります。画像診断などでダブルチェックが難しいなどの問題もあり、ABC検査などを考えて検査機関とコラボレーションすることができればいいですね。

■東 新型コロナウイルスに対し、我々は、過去にSARSへの対応として製品開発を行ったことだから、これを応用することで速やかに製品を開発することができました。

■下村 「免疫反応」でいけるのではないかと経験です。パンデミックのときにどういった開発をしていくかという想定はしてあります。

■下村 アミノ酸分析や遺伝子解析と組み合わせて将来はがんの診断、治療が行われると思います。そのコンヒネーションという意味では、検査に対応した薬の進歩が速く、臓器に関係なく遺伝子の異常に対応する薬を使いましょうという、臓器を跨いだ治療の考え方が出てきている。そのような診断治療に向かっていると思うんです。

■東 そうですね。医療技術の進歩を支える特殊検査にもより力を入れていくことが重要と考えています。

「H.U.グループホールディングス」は1950(昭和25)年に富士製薬として創業。主に臨床検査薬の研究開発・製造・販売事業を展開し1983年に富士レボに社名を変更。1970年に創業した臨床検査企業エスアールエル(旧・東京ペリアルファランストラボラトリー)等と2005年に経営統合して「みらかホールディングス」となり、創業70年を迎えた2020年にヘルスケアの発展に貢献する企業グループ「H.U.グループホールディングス」となった。H.U.は「ヘルスケア・フォー・ユー」の意味。検査

他社に先駆け、PCR検査受託に対応

(山本哲也)